

マーケット概況（2021年8月）

8月の債券相場は、10年363回債の利回りが前月末比横ばいの0.015%で取引を開始した後、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から4日に10年363回債の利回りは新発債として2020年12月16日以来となる0.000%まで低下し、同日夜間取引で債券先物9月限は152円57銭まで上昇した。4日にクラリダFRB副議長が早期利上げに前向きな発言をしたことに加え、6日発表の7月米国雇用統計が市場予想を上回る結果となると相場は売りに転じ、11日に10年363回債の利回りは0.035%まで上昇し、同日夜間取引で債券先物9月限は151円99銭まで下落した。しかし、13日発表の米国ミシガン大学8月消費者態度指数が10年ぶりの低水準となったことに加え、アフガニスタンにおける地政学リスクの高まりと国内における緊急事態宣言の期間延長および対象地域拡大を受け、相場は再び買いが優勢になった。その後は24日に米国下院で3.5兆ドル規模の予算案が可決され米国主要株価指数が過去最高値を更新したことや、FRB高官からタカ派的発言が相次いだことで相場は再度反落したが、27日に実施されたジャクソンホール会議でパウエルFRB議長がテーパリングの年内開始が適切としつつも早期利上げには否定的な姿勢を示したことが相場の下支えとなり、結局10年363回債の利回りは0.020%で取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、発行の減額により需給が締まり月末にかけて-0.12%台に低下した。6日の3M1014回債入札は最高落札利回りが-0.1074%で始まり、13日の3M1015回債入札では-0.1122%に低下、応札倍率は5.31倍と2018年4月以来の高水準となった。27日の3M1019回債入札は-0.1162%となり、セカンダリー市場では-0.120%で取引を終えた。3Mゾーンの需給改善を受けて、6M、1Y金利も徐々に低下し-0.12%台～-0.13%台で推移した。3Mの発行減額を背景に、国庫短期証券買入オペのオフター額が1回あたり7,500～1,000億円に減額されたが、19日の1Y入札、24日の6M入札の最高落札利回りはともに-0.12%台で前回債から低下し、セカンダリー市場では6M1018回債は-0.132%、1Y1016回債は-0.130%で取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債はなく、ベンチマークとなった10年地方債は、起債スプレッドは国債カーブ+6.0bpと前月比同水準だが国債金利の低下に伴い利率は節目の0.10%を大きく下回った。しかし、条件決定前に0.00%近辺まで低下した国債の代替運用先として需要が旺盛となり、また8月は銘柄数が少ないことから順調に消化された。5年地方債は0.005%クーポンを維持し販売が進んだ。既発債は引き続きスプレッドと利回り水準がともに意識されたが需要は底堅い状況だった。社債は、例年8月は夏季休暇を挟み一般事業会社の起債が閑散となるが、今年は明治安田生命保険会社の劣後ローン流動化債と東京電力パワーグリッド債の大型起債があり、発行額は4,533億円と前年同月比2,003億円増加した。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#363	0.015(2日)	0.000(4日)	0.035(11日)	0.020(31日)
#362	0.000(2日)	-0.015(4日)	0.020(11日)	0.005(31日)
#352	-0.130(3日)	-0.140(4日)	-0.095(11日)	-0.105(31日)
#148(5Y)	-0.130(3日)	-0.135(4日)	-0.115(26日)	-0.120(31日)
#177(20Y)	0.390(2日)	0.370(4日)	0.410(11日)	0.400(31日)
#1010-#1018TDB(6M)	-0.119(5日)	-0.132(30日)	-0.119(5日)	-0.132(30日)
#1012-#1019TDB(3M)	-0.112(6日)	-0.130(20日)	-0.108(13日)	-0.120(27日)